

## 日本人 EFL 学習者の英語学習方略に関する研究(2)

北 條 礼 子\*

(平成8年10月21日受理)

### 要 旨

日本人 EFL 学習者が外国語(英語)を学習するときに用いている学習方略を調査するための調査項目を選定するため、欧米で開発された英語学習における学習方略の調査項目50項目と本研究に先立つ研究結果を参考に選択した項目19項目、その他著者の考案した項目などを加えて合計100項目を対象に、日本人が対象者である場合に適当であるかどうかを確認した。1996年4月に本学1年生計189名を対象に調査を実施し、因子分析により検討した。その結果5因子が抽出され、それぞれ因子負荷量の多い順に4項目ずつを選び、最終的に計20項目を選択した。

### KEY WORDS

学習方略 learning strategy

態度 attitude

英語科教育 English education

語学教育 language education

### 1. 研究の背景

第2言語習得の分野では、方略は、学習方略とコミュニケーション方略の2種類に大別されて扱われてきた。コミュニケーション方略は、私たちが意味をいかに生産的に表現するか、他にメッセージをいかに伝達するか、という出力に関係している。一方、学習方略は、処理、貯蔵、検索という、他からメッセージを取り込むという、入力に関係している(Brown: 1995, 114~118)。国内における学習方略に関する研究をみると、Oxford (1990b)が開発したSILL (Strategy Inventory for Language Learning: Ver. 7.0)に代表されるように、欧米で開発された調査票の翻訳版であることが多く、必ずしも日本人 EFL 学習者に適しているというわけではない(Watanabe, 1991)。言い換えると、現在まで日本人 EFL 学生が英語学習において用いている学習方略を対象とした包括的な調査項目が用いられていないと考えられる。筆者は本研究に先立って、研究対象者に合った学習方略の調査項目の選定を目標に、その第一歩として、Politzer & McGroarty (1985)が用いた調査項目が日本人学習者に適合するかどうかについて検討した。その結果、対象とした53項目のうち5項目が不適當であることが明らかになった。さらに、彼らの調査項目をSILLの50項目と比較検討すると、内容が重複している項目としない項目があり、後述の50項目のうちにも必ずしも日本人学習者に適當ではないと判断される項目も見受けられた。そこで、なるべく多角的な角度から調査項目を最終的に選定するため、先回の調査結果を踏まえ、SILLの項目を基に、新たに調査項目を加えた上で、日本人 EFL 学

---

\* 言語系教育講座

習者のための調査項目を検討することが必要であると考えられた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本人 EFL 学習者の学習方略を調べるための調査項目を選定することである。ここで検討の対象となる項目は、① R. Oxford が開発した SILL の 50 項目、② 本研究に先立って実施した調査において検討した項目のうちで前述の 50 項目と内容の重ならない 19 項目、③ 大学 1 年生を対象とした自由記述形式のアンケートにより、筆者が収集したデータを基に、作成した 10 項目、④ 他の先行研究から採用した 4 項目、⑤ 筆者が経験などに基づき考案した 17 項目とを加え、合計 100 項目から成る調査項目である。

## 3. 研究の方法

3.1 対象者：上越教育大学 1 年生 189 名

3.2 測定具：100 項目から成る 5 段階尺度形式のアンケート：その内訳は、① Oxford が開発した the Strategy Inventory for Language Learning (SILL) Version 7.0 (ESL/EFL) の 50 項目、② 予備調査 1 で検討して日本人を対象とした質問項目として適当であると判断された、Politzer & McGroarty (1985) が用いた 52 個の質問項目のうち、SILL と内容が重複しない 19 項目、③ 筆者が 1995 年 2 月に大学 1 年生 50 名を対象とし実施した自由記述式アンケートの結果を参考に作成した 10 項目、④ 国内の先行研究（荻野, 1995；飯島, 1996）から採用した 4 項目、⑤ 筆者が考案した 17 項目である。なお SILL の質問項目は筆者が日本人学習者が被験者であることを念頭において翻訳し、その他の 50 項目と併せて日本語表現について、英語の現職教員 2 名に、内容が理解しにくい表現について指摘を受け、必要な箇所を修正した。

3.3 調査実施時期：1996 年 4 月

3.4 手続き：約 30 分の実施時間で、集団調査を行った。本研究で扱う部分について述べると、回答形式は 5 部～7 部は「1. まったくそうしない、2. めったにそうしない、3. どちらでもない、4. ときどきそうする、5. いつもそうする」の 5 段階であり、1～5 点までの得点化を行って項目ごとに集計した。

3.5 分析方法：因子分析

## 4. 研究の結果

### 4.1 平均値・標準偏差

英語学習における態度、学習方略に関する 100 項目への回答について、「いつもそうする」を 5 点、「まったくそうしない」を 1 点とし、中間段階を 1 点きざみで得点化した。表 1 は各項目の平均と標準偏差を示したものである。

以上の 100 項目のうち、平均±標準偏差の値が得点範囲（1－5）を越えた項目 52、項目 60、項目 75、項目 76、項目 79 の計 5 個の質問項目を、天井効果が生じたものと判断し、因子分析に

持込まなかった。

表1：各質問項目の評定得点の平均と標準偏差 (N=189)

項目	Mean	SD	項目	Mean	SD	項目	Mean	SD	項目	Mean	SD
1	3.23	(1.02)	26	3.47	(1.10)	51	2.72	(1.08)	76	4.17	(0.95) <sup>2</sup>
2	3.08	(1.09)	27	2.76	(1.18)	52	4.42	(0.79) <sup>2</sup>	77	4.13	(0.84)
3	3.23	(1.16)	28	2.04	(0.94)	53	3.20	(1.00)	78	3.61	(1.25)
4	2.85	(1.11)	29	3.43	(1.09)	54	3.13	(1.22)	79	4.11	(1.05) <sup>2</sup>
5	2.87	(1.15)	30	1.72	(0.96)	55	3.30	(1.16)	80	3.24	(1.33)
6	2.78	(1.24)	31	3.48	(1.10)	56	3.65	(1.22)	81	3.94	(0.94)
7	1.88	(1.08)	32	3.10	(1.19)	57	2.79	(1.10)	82	3.68	(1.09)
8	2.96	(1.02)	33	3.49	(1.05)	58	3.28	(1.06)	83	3.90	(1.02)
9	2.29	(1.12)	34	2.92	(1.12)	59	3.66	(1.19)	84	2.05	(1.12)
10	3.86	(1.16)	35	1.84	(0.82)	60	4.15	(0.99) <sup>2</sup>	85	3.38	(1.26)
11	2.86	(1.13)	36	2.00	(0.97)	61	3.72	(1.06)	86	1.86	(0.91)
12	3.20	(1.13)	37	2.74	(1.17)	62	1.99	(1.12)	87	1.49	(0.86)
13	2.61	(1.00)	38	2.22	(0.87)	63	1.93	(1.25)	88	2.79	(1.25)
14	2.04	(0.89)	39	2.98	(1.15)	64	2.83	(0.95)	89	2.15	(1.14)
15	2.02	(1.12)	40	2.67	(1.14)	65	1.96	(0.95)	90	1.93	(1.03)
16	2.01	(1.01)	41	3.20	(1.26)	66	2.09	(1.03)	91	2.38	(0.97)
17	1.83	(0.94)	42	2.87	(1.19)	67	1.85	(1.15)	92	3.23	(1.01)
18	3.54	(1.18)	43	1.25	(0.52)	68	3.57	(1.34)	93	3.99	(0.97)
19	3.46	(1.08)	44	2.78	(1.18)	69	1.85	(1.18)	94	3.00	(1.18)
20	3.24	(1.08)	45	3.75	(1.09)	70	1.85	(1.04)	95	2.97	(1.05)
21	3.91	(1.01)	46	2.03	(1.02)	71	2.95	(1.27)	96	2.59	(0.92)
22	3.01	(1.11)	47	2.05	(1.03)	72	3.68	(1.05)	97	3.29	(1.17)
23	2.85	(1.08)	48	1.93	(0.99)	73	1.68	(0.79)	98	3.68	(1.01)
24	3.66	(0.95)	49	2.45	(1.38)	74	3.08	(1.22)	99	3.71	(1.00)
25	3.59	(1.13)	50	2.72	(1.08)	75	4.20	(0.93) <sup>2</sup>	100	3.23	(1.07)

<sup>1</sup> カッコ内は標準偏差

<sup>2</sup> 天井効果と判断された質問項目

#### 4.2 因子分析の結果

英語学習における学習方略に関する100項目の得点について、天井効果を示した5項目を削除した後の95項目の得点について、共通性の初期値をSMCとした反復主因子法を実行し、後続因子との固有値の差に基づいて5因子解を適当と判断した。その結果として、再度5因子解を仮定した反復主因子法を実行した。バリマクス回転後、各項目の因子負荷量を得た。次に5因子の解釈にあたり、回転後の因子パターンにおいて絶対値.40以上の因子負荷量を示した項目の内容を中心として因子を解釈することにした。バリマクス回転後の因子パターンはを表2に示すとおりである。

表 2 : バリマクス回転後の因子パターン

	因子 I	因子 II	因子 III	因子 IV	因子 V	共通性
項目86	0.7078	0.0426	0.0413	0.1220	-0.0553	0.5225
項目36	0.6340	0.1685	0.0769	0.3106	<u>0.6340</u>	0.5339
項目35	0.6325	0.3873	-0.0392	0.1730	-0.0538	0.5844
項目87	0.5833	-0.1567	0.0235	0.1589	-0.0975	0.4001
項目90	0.5703	0.3313	0.0526	0.0331	0.1660	0.4665
項目73	0.5444	0.1577	0.1718	0.1360	0.0367	0.3706
項目48	0.5267	<u>0.4636</u>	0.0586	-0.0308	0.1460	0.5180
項目30	0.4930	<u>0.4542</u>	-0.0664	0.1685	-0.1446	0.4823
項目37	0.4857	-0.0329	0.3884	0.2699	-0.1294	0.4774
項目28	0.4810	0.2624	0.0892	0.1925	-0.1858	0.3797
項目46	0.4651	0.3500	0.1046	-0.0359	0.0619	0.3549
項目16	0.4639	0.2611	0.1092	0.3912	-0.1046	0.4593
項目43	0.4357	-0.1049	-0.0187	-0.0646	0.0716	0.2105
項目84	0.4300	0.0405	0.2057	-0.0025	0.0644	0.2330
項目50	0.4262	0.1390	0.2907	0.3537	-0.0298	0.4114
項目65	0.4162	<u>0.4112</u>	-0.0250	0.0797	0.1272	0.3654
項目64	<u>0.4011</u>	0.3999	0.0996	0.1432	0.1525	0.0972
項目38	0.3964	0.0500	0.3960	-0.0109	-0.0498	0.3190
項目47	0.3477	0.1892	0.1770	-0.0975	0.1074	0.2091
項目70	0.3302	0.0442	-0.0732	0.3199	-0.1055	0.2245
項目13	0.3150	0.2999	0.2624	0.2624	0.2903	0.3396
項目 7	0.2743	-0.0352	0.0770	0.1314	0.1544	0.1236
項目29	0.1293	<u>0.6630</u>	0.1554	0.3424	0.0014	0.5977
項目26	0.0997	0.6262	0.1223	0.2916	0.1215	0.5168
項目40	0.3578	0.6181	0.1040	0.2853	-0.0323	0.6034
項目25	0.0172	0.5885	-0.0161	0.2654	0.1242	0.4327
項目45	0.1172	0.5715	0.2345	0.0789	0.2067	0.4331
項目39	0.1028	0.5492	0.2134	0.2134	-0.1206	0.4431
項目89	<u>0.4060</u>	0.5200	0.2265	0.0820	0.0805	0.4997
項目88	0.1233	0.5066	0.2251	0.1065	0.0707	0.3389
項目49	0.1851	0.5015	0.1544	0.0252	-0.0158	0.3105
項目14	<u>0.4012</u>	0.4978	0.2477	0.2262	-0.1713	0.5507
項目91	<u>0.4119</u>	<u>0.4598</u>	0.2408	0.0230	0.0934	0.4483
項目99	0.0031	0.3980	0.3089	0.2957	0.2104	0.3855
項目17	0.3606	0.3957	0.0761	0.1661	0.0353	0.3212
項目92	0.2347	0.3458	0.0402	0.3304	0.1769	0.3167
項目 5	-0.1219	0.3238	-0.0074	0.0065	0.1316	0.1371
項目95	-0.1530	<u>-0.4146</u>	-0.3687	-0.1876	0.2732	0.4410
項目97	-0.3484	<u>-0.4681</u>	-0.1963	-0.2279	0.2116	0.4758
項目58	0.1472	0.1216	<u>0.6729</u>	0.0914	0.1119	0.5101
項目34	0.2408	-0.0046	<u>0.6372</u>	0.0019	0.0865	0.4715

項目31	0.1365	0.3262	0.6296	0.0944	-0.0841	0.5374
項目33	0.1530	0.1840	0.5785	0.0754	0.0976	0.4071
項目20	-0.0405	0.1991	0.5772	0.0249	0.1408	0.3948
項目59	0.0336	0.1153	0.5744	0.1357	0.2438	0.4222
項目8	0.1114	-0.0331	0.5435	0.2918	0.2023	0.4349
項目94	0.1891	0.2181	0.5114	0.1153	0.1194	0.3724
項目72	0.2232	0.2858	0.5066	0.1145	0.1028	0.4118
項目1	0.2620	0.0984	0.4717	0.2741	-0.0008	0.3759
項目61	0.0095	-0.0543	0.4411	0.3334	0.2020	0.3496
項目83	-0.0156	0.0211	0.4278	0.0745	0.2917	0.2743
項目98	-0.0210	0.3541	0.3843	0.3494	0.1356	0.4140
項目19	0.1342	0.2041	0.2961	0.2330	0.0194	0.2099
項目9	0.0207	0.0793	0.2736	0.0107	0.1615	0.1077
項目63	0.1604	-0.1205	0.2359	0.0655	0.1988	0.1397
項目96	0.0686	-0.2214	-0.3804	-0.0052	0.2538	0.2628
項目12	0.2249	0.0915	0.3138	0.5763	0.0091	0.4896
項目11	0.2890	0.2054	0.2702	0.5168	-0.1006	0.4759
項目69	0.4105	-0.1149	0.0440	0.4711	-0.0443	0.4076
項目22	0.1029	0.1247	0.2449	0.4685	-0.1949	0.3436
項目32	0.3625	0.2439	0.2737	0.4504	0.0325	0.4698
項目67	0.3348	0.1380	-0.0126	0.4376	0.0703	0.3277
項目27	0.0448	0.1871	-0.0307	0.4288	-0.1306	0.2389
項目85	0.3267	0.0743	0.0424	0.4283	0.2160	0.3441
項目2	0.2045	-0.0449	0.2110	0.4236	0.1505	0.2905
項目18	0.0370	0.1847	0.3368	0.4159	-0.0408	0.3235
項目71	0.3503	0.0981	0.0455	0.4093	-0.1088	0.3138
項目21	-0.0031	0.3718	0.1917	0.4045	0.1010	0.3487
項目24	0.0139	0.3365	0.2204	0.4020	0.0022	0.3487
項目4	0.2381	0.1808	-0.0011	0.3807	-0.0290	0.2352
項目52	0.0839	0.1534	0.1388	0.3789	0.3533	0.3182
項目68	0.0539	0.1381	-0.0777	0.3647	0.0778	0.1671
項目3	-0.0055	0.2381	0.2673	0.3584	-0.0942	0.2655
項目23	0.0469	0.3235	0.1608	0.3350	-0.0260	0.2456
項目15	0.2821	0.2004	0.1079	0.3281	-0.1440	0.2597
項目62	0.0727	-0.0621	-0.0025	-0.2823	0.2645	0.1588
項目74	0.0880	-0.0250	-0.0768	-0.3570	0.3177	0.2426
項目82	-0.0369	0.1398	0.3217	0.0697	0.5135	0.3929
項目81	-0.0566	0.1557	0.3268	0.0821	0.4843	0.3755
項目56	-0.0156	0.0158	0.2370	0.2195	0.4824	0.3375
項目54	-0.0289	0.0434	-0.0522	0.0714	0.4472	0.2105
項目55	0.0410	0.1274	0.2374	0.4085	0.4468	0.4407
項目10	-0.0779	0.0158	0.1920	0.4104	0.4373	0.4028
項目41	0.1823	0.2251	0.1231	0.0488	0.3876	0.2349
項目93	-0.0857	0.1359	0.0235	-0.0009	0.3627	0.1579

項目100	-0.0134	-0.1230	-0.0370	-0.1280	0.3541	0.1585
項目53	0.0753	0.2349	0.1499	0.2071	0.3465	0.2463
項目57	0.0719	-0.0379	0.0350	-0.0824	0.3070	0.1089
項目78	-0.0072	0.2605	0.1749	-0.0837	0.2884	0.1887
項目77	-0.0653	0.1905	0.1771	-0.1713	0.2814	0.1804
項目44	0.1289	0.1200	0.0743	-0.0253	0.2791	0.1151
項目64	0.0151	0.0998	0.0287	-0.0993	0.2763	0.0972
項目42	0.0417	-0.1196	-0.0405	0.0097	0.2328	0.0719
項目80	-0.0291	0.0464	0.1850	-0.1766	0.2321	0.1223
項目 6	-0.0518	-0.0634	0.0630	-0.0290	0.1351	0.0298
説明分散	7.6135	7.5804	6.6903	6.3351	3.9360	32.1554

(注) 枠囲いされた数値はおよび下線を引いた数値は|0.40|以上。

因子の解釈にあたり、基本方針として、表2の回転後の因子パターンにおいて絶対値 .40以上の因子負荷量を示した項目の内容を中心として因子を解釈することにした。

100の調査項目のうち、52項目が .40以上を示した。(52項目 (SILL30+その他22))

因子Iに、.40以上の負荷量を示した項目を表3にあげた。因子Iには項目88, 36, 35, 87, 90, 73, 37, 28, 46, 16, 43, 84, 50, 66の計14項目が含まれていた。これらの項目内容を見ると、英語を實際口に出して練習する努力をしたり(項目86, 35, 87, 66)、英語で書かれた本を読んだり(項目36, 16)、常に自分の英語力を高めようとはっきりとした目標をもって(項目37)、自分が英語を勉強するときの不安などの感情を記録につけている(項目84)ことがわかる。また、英語が使える行事やイベントに参加して(項目73)、会話の際には相手が次に何を言うかを予測しながら(項目28)主導権を握る努力もし(項目73)、間違ったときには自分の英語を直してもらおうように頼んでいること(項目46)が明らかになった。最後に、その他にも、カセット・テキスト付きの長文読解教材を用いたり(項目84)、英語圏の文化を学習しようとしている(項目84)こともわかった。以上から、因子Iは学生が授業以外の場面で、英語に積極的に接触しようとする態度を表していると考えられ、「授業場面以外の英語接触」と命名した

表3：因子Iの負荷の大きい項目とその内容：(第I因子：14項目(SILL 8+その他6))

項目番号	負荷量	項 目 の 内 容
88	.71	自分がしている行動や自分が見たものについて、英語で説明できるかどうか試してみる
36	.63	英語で書かれた本を読む機会をなるべく多くつくり、英語の勉強に役立てようとする
35	.63	英語で話しかけられる人をさがし、英語を話す機会をつくる
87	.58	自分に向けて英語で話してみる
90	.57	自分の好きな話題や使いたい表現が使える会話に、意図的にもっていったことがある
73	.54	英語の授業以外で、英語が話される行事やイベントに参加する
37	.49	自分の英語力を高めようという、はっきりした目標がある
28	.48	誰かが英語で話すのを聞いているとき、その人が次に何を言うかを予測することを心がけている
46	.47	英語を話しているとき、間違えたら直してもらおうようにAETなどの外国人に頼

	む	
16	.46	英語で書かれた本を読むのが楽しい
43	.44	自分が英語を勉強したときの色々な感情(好き嫌い, 不安など)を記録につけておく
84	.43	カセット, テキストつきの長文読解教材を用いて(買ったり, 借りたりして)勉強する
50	.43	英語で話す人々の文化について学習しようと心がけている
66	.40	暗記した文章を会話のとき使う

次に, 因子IIに, 04以上の負荷量を示した項目を表4にあげた。因子IIには項目29, 26, 40, 25, 45, 39, 88, 49, 95, 97の計10項目が含まれていた。これらの項目内容をみると, まず, 誰かと話していて適切な単語や表現を思いつかなければ, 似たような意味の単語や表現で代用したり(項目29, 26), ジェスチャーを用いたり(項目25)すること, 次に相手の言うことがわからなければゆっくり話してもらったり, 繰り返してもらったりする(項目45)と同時に相手が自分の発音を理解してくれなければスペルを行ったり(項目88)して何とかコミュニケーションをしようとする積極性が感じられる。さらに, AETや外国人の先生には英語で質問している(項目49)。また, 英語を話すとき, 不安ではあるが勇気をだしたりリラックスするように自ら努め(項目40, 39)ている姿も明らかになった。項目95, 97は負の負荷量を示したが, 両項目の内容を見ると, 間違っても英語で話してみようとし(項目95), 英語で話さなければならない状況を避けない(項目97)ことがわかった。以上から, 因子IIは学生がコミュニケーションに対して, 不安を克服しながら積極的に取り組もうとする意欲を表していると考えられ, 「コミュニケーションに対する積極的意欲」と命名した。

表4: 因子IIの負荷の大きい項目とその内容(第II因子: 10項目(SILL 7+その他3))

項目番号	負荷量	項目の内容
29	.66	誰かと英語で話していて, 単語を思いつかないとき, 似たような意味の単語や語句を使う
26	.63	誰かと英語で話しているとき, 適切な表現を思いつかなければ, 似たような意味の別の言い方で代用する
40	.62	間違っかもしれないと不安になるが, 勇気をだして英語を話すようにしている
25	.59	誰かと英語で話しているとき, 適切な表現が思い浮かばなければ, ジェスチャーを使う
45	.57	英語がわからないとき, ゆっくり話してもらったり, 繰り返して言ってもらうように頼む
39	.55	英語を話すとき, うまくいえるかどうか不安になるがリラックスするようにしている
88	.51	相手が自分の発音を理解しなかったら, 相手がわからなかった単語や語句のスペルをいう
49	.50	AETや外国人の先生には, 英語で質問する
95	-.41	英語で間違っより黙っている方が賢明だと感じることがある
97	-.47	英語で話すのが精神的に苦痛なので, 英語で話さなければならない状況をできるだけ避ける

また、因子IIIに、04以上の負荷量を示した項目を表5にあげた。因子IIIには項目58, 34, 31, 33, 20, 59, 8, 94, 72, 1, 61, 83の計12項目が含まれていた。これらの項目内容をみると、英語の授業のため英語の勉強時間はしっかり取れるよう計画を立て（項目34）、たいてい予習、復習をし（項目59, 8）、自分に合った勉強法を常にみつけようと心がけながら（項目33）、授業で聞き逃した単語、文法は授業以外の時間に勉強している（項目29）姿が浮び上がる。また、文法に注意し授業中先生に質問をし（項目20, 94）、同時に自分の間違いにも注意し、気づいたら、その後の学習に生かし（項目31, 72）ている。さらに辞書を引いて勉強するときにも例文をみたり既習のことと関連づけていること（項目1, 61）もわかった。最後に受験のための勉強もここに含まれていたが、文法中心であることと関係が深いと推測される。以上から、因子IIIは学生が英語の授業に焦点をあて、文法を重視している英語学習態度を表していると考えられるので、「文法重視の英語授業態度」と命名した。

表5：因子IIIの負荷の大きい項目とその内容（第III因子：12項目（SILL 6+その他6））

項目番号	負荷量	項 目 の 内 容
58	.67	授業で聞き逃した単語や文法について、授業以外の時間に勉強したり、練習する
34	.64	英語の勉強時間が十分取れるように計画を立てている
31	.63	自分の英語の間違いに注意し、もし気づいたらその後の学習に生かす
33	.58	英語の勉強が効果的にできるような勉強法をみつけようと心がけている
20	.58	文法的に正しいようにと、できるだけ文法を意識する
59	.57	英語の授業のため、たいてい予習する
8	.54	授業で勉強したところはたいてい復習する
94	.51	英語の授業中、ある文法規則について例外があることに気づいたら、先生に説明を求める
72	.51	人に自分の英語の間違いを指摘されたら、その後の学習に生かす
1	.47	英語で新しい事項（文法事項など）を勉強するとき、すでに知っていることと関連させておぼえる
61	.44	辞書で単語を引くとき、その語が使われている例文をいつも見る
83	.43	受験のための参考書、問題集を勉強する

さらに、因子IVに、04以上の負荷量を示した項目を表6にあげた。因子IVには項目12, 11, 22, 32, 67, 27, 85, 3, 18, 71, 21, 24の計12項目が含まれていた。これらの項目内容をみると、英語を一人で学習するとき、発音に注意を払って英語を母語とする人の発音をまねて練習したり（項目11, 12）、英語を話す人がいればその人の話を聞いたり英語のテレビ番組を見たり、雑誌などでみた意味のわからない単語の意味を辞書で引いたり、英語の歌を聞いてその中の単語、表現をおぼえるなど、積極的に英語に接している態度が伺える（項目32, 67, 71）。また、英語を聞いたり読んだりするとき、単語一語一語を訳さずに、意味を推測する態度も示されている、と考えられる（項目22, 27, 18, 21, 24）。以上より、因子IVは英語を一人で学習するときの英語に積極的に接する態度を表していると考えられ、「個人学習における英語への積極的な取り組み」と命名した。



表6：因子IVの負荷の大きい項目とその内容（第IV因子：12項目（SILL 9 + その他3））

項目番号	負荷量	項 目 の 内 容
12	.58	英語の発音が正しくできるように練習する
11	.52	英語を母国語とする人と同じように話そうとまねる努力をする
22	.47	英語を聞いたり読んだりするときには、単語一語一語を日本語に訳さないように心がけている
32	.45	英語を話している人がいたら、その人の話しに耳を傾ける
67	.44	「英語で話そう」や「NHK英会話」などの日本語も使われる英語のテレビ番組をみる
27	.43	英語の長文を読むときに、意味のわからない単語をいちいち辞書で調べない
85	.43	雑誌などで見たり、日常使われているが意味のわからない英単語や表現があれば辞書で意味を調べる（車の名前など）
3	.43	単語や語句をおぼえるとき、英文と一緒におぼえる
18	.42	英語の長文を読むときは、最初ざっと読んで大切な点を理解し、その後、注意深く細かい点まで読む
71	.41	英語の歌（洋楽）を聞いて英語の単語や表現をおぼえる
21	.40	長い英単語の意味がわからないとき、部分的に意味がわかれば、そこから意味を推測する（eg. class+room）
24	.40	知らない単語があったら、意味を推測する

最後に、因子Vに、04以上の負荷量を示した項目を表7にあげた。因子Vには項目82、81、56、54の計4項目が含まれていた。これらの項目内容をみると、項目82と56が基本的英文の暗記、項目81と54が単語、熟語の暗記に関するものである。ここから因子Vは基本的な英単語、英文の暗記を表していると考えられるので、因子Vは「基本英単語・英文の暗記」と命名することにした。

表7：因子Vの負荷の大きい項目とその内容（第V因子：4項目（SILL 0 + その他4））

項目番号	負荷量	項 目 の 内 容
82	.51	入試によく出る基本の英文（基本構文など）を暗記する
81	.48	入試に出る単語、熟語を暗記する
56	.48	基本的な英文は、何度も紙に書いておぼえる
54	.45	単語は単語テストを利用しておぼえる

## 5. 研究の考察

### 5.1

英語の授業中の態度についてのそれぞれの因子が解釈された内容を一覧すると、以下のようになった。

因子I：授業場面以外の英語接触

因子II：コミュニケーションに対する積極的意欲

因子III：文法重視の英語授業態度

因子Ⅳ：個人学習における英語への積極的な取り組み

因子Ⅴ：基本英単語・英文の暗記

## 5.2 本調査にむけての質問項目の選定について

最後に、本調査で扱った100個の質問項目から日本人 EFL 学習者の英語の学習方略を調べるための項目を選定した。

まず本研究で扱った100項目の中から平均と標準偏差から天井効果を示した5項目を削除し、その後因子分析を行った結果、52項目が残った。さらに5因子について、それぞれ因子負荷量の高いものから4項目ずつ、計20項目を最終的に調査項目として選択した。この20項目は、表3～表6に示した項目の因子負荷量の多い順にそれぞれ4項目ずつである。

## 参 考 文 献

- 北條礼子. 1996. 「日本人 EFL 学習者の英語学習方略に関する研究(1)」 上越教育大学研究紀要 16, 1, 185-196.
- 飯島博之. 1996. 「日本人 EFL 学習者の英文読解ストラテジーに関する研究(1)」 第35回(1996年度) JACET 全国大会要綱 343-346.
- Ogino, K. 1994. *A Study of Learner Characteristics of Japanese EFL Junior High School Students: Learning Style, Strategies, Motivation and Gender*. Unpublished MA thesis. Joetsu University of Education.
- Oxford, R. L. 1990. *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. Heinle & Heinle Publishers.
- Politzer, R. L, & McGroarty, M. 1985. An Exploratory Study of Learning Behavior and Their Relationship to Gains in Linguistic and Communicative Competence. *TESOL Quarterly*, 19, 1, 103-124.
- Watanabe, Y. 1991. Classification of Language Learning Strategies. *International Christian University Language Research Bulletin*, 6, 75-102.

## A Study of Learning Strategies Used by Japanese EFL Students (2)

Reiko HOJO\*

### ABSTRACT

The purpose of this study was to develop questionnaire items which were suitable for investigating learning strategies used by Japanese EFL students.

Data were gathered from 189 university freshmen in April of 1996, using the questionnaire consisting of 100 items as a total. The data were analyzed by factor analysis.

The analysis extracted five factors among 100 questionnaire items, and four items for each factor were finally selected for further inquiring learning strategies used by Japanese EFL students.

---

\* Division of Languages : Department of Foreign Languages

## 付録：本研究で用いた100項目

本研究で用いた100項目のうち、項目1から50までは R. Oxford (1990) の SILL (Ver. 7.0) を日本語に翻訳したものである。また、\*のついた19項目は Politzer & McGroarty (1985) が用いた項目のうち、筆者による先行研究において適当な項目と判断された項目で、前述の SILL の50項目と内容が重複しない項目である。さらに、\*\*のついた項目は筆者が実施した英語学習における学習方略についての自由記述式のアンケートから採択した10項目であり、\*\*\*のついた項目は他の先行研究（飯島、荻野）から採用した4項目、\*\*\*\*のついた項目は筆者が考案した17項目である。

なお、項目番号に下線が引かれた項目が最終的に採択された20項目である。

項目番号	内 容
1	英語で新しい事項（文法事項など）を勉強するとき、すでに知っていることと関連させておぼえる
2	単語や語句をおぼえるとき、英文と一緒におぼえる
3	単語をおぼえるときその発音と単語のイメージや映像を結びつけておぼえる
4	単語や語句をおぼえるとき、その単語が使われる状況を頭に思い浮かべる
5	単語や語句をおぼえるとき、語呂あわせをつけておぼえる
6	単語や語句をおぼえるとき、単語カードを使う（片面に単語や語句、片面に発音や意味を書くなど）
7	単語をおぼえるとき、具体的な動作を表す単語であれば、実際にその動作をしてみる（openであれば本を開いたりするなど）
8	授業で勉強したところはたいてい復習する
9	新しい単語や語句をおぼえるために、それが出てきた教科書のページ、板書やノートの位置をおぼえる
10	新しい単語や語句をおぼえるとき何度も声に出したり書いたりしておぼえる
<u>11</u>	英語を母国語とする人と同じように話そうとまねる努力をする
<u>12</u>	英語の発音が正しくできるように練習する
13	知っている単語をいろいろ組み合わせて使ってみる
14	英語で話すとき、自分から進んで会話を始める
15	2ヶ国語放送のテレビ番組や映画を日本語訳が出ない英語だけの状態で見る
16	英語で書かれた本を読むのが楽しい
17	英語でメモ、メッセージ、手紙を書く
18	英語の長文を読むときは最初ざっと読んで大切な点を理解し、その後注意深く細かい点まで読む
19	新しい英単語や語句をみたとき、日本語訳を思い浮かべる
20	文法的に正しいようにと、できるだけ文法を意識する
21	長い英単語の意味がわからないとき部分的に意味がわかればそこから意味を推測する（eg. class+room）
<u>22</u>	英語を聞いたり読んだりするときには、単語一語一語を日本語に訳さないように心がけている
23	英語を聞いたり読んだりした内容は、その内容を要約する
24	知らない単語があったら、意味を推測する
<u>25</u>	誰かと英語で話しているとき適切な表現が思い浮かばなければ、ジェスチャーを使う

- 26 誰かと英語で話しているとき適切な表現を思いつかなければ似たような意味の別の言い方で代用する
- 27 英語の長文を読むときに、意味のわからない単語をいちいち辞書で調べない
- 28 誰かが英語で話すのを聞いているとき、その人が次に何を言うかを予測することを心がけている
- 29 誰かと英語で話していて単語を思いつかないとき似たような意味の単語や語句を使う
- 30 自分で英語を使うために AET、英語を話す外国人、観光客をみつけたりペンフレンドをつくったりさまざまな方法をこころがけている
- 31 自分の英語の間違いに注意し、もし気づいたらその後の学習に生かす
- 32 英語を話している人がいたら、その人の話しに耳を傾ける
- 33 英語の勉強が効果的にできるような勉強法をみつけようと心がけている
- 34 英語の勉強時間が十分取れるように計画を立てている
- 35 英語で話しかけられる人をさがし、英語を話す機会をつくる
- 36 英語で書かれた本を読む機会をなるべく多くつくり、英語の勉強に役立てようとする
- 37 自分の英語力を高めようという、はっきりした目標がある
- 38 自分の英語力がどのくらい上達したかを確かめながら勉強している
- 39 英語を話すとき、うまくいえるかどうか不安になるがリラックスするようにしている
- 40 間違えかもしれないと不安になるが勇気をだして英語を話すようにしている
- 41 英語で話が通じたり、成績がよかったり、つまり英語で何かよい結果がでたとき、自分をほめる
- 42 英語を話したり書いたりするとき自分が緊張したり神経質になっているなど自分の感情を気に留める
- 43 自分が英語を勉強したときの色々な感情（好き嫌い、不安など）を記録につけておく
- 44 英語を学習していて、楽しかったり、いやだったりと、いろいろ感じたことを誰かに話す
- 45 英語がわからないとき、ゆっくり話してもらったり、繰り返して言ってもらうように頼む
- 46 英語を話しているとき、間違えたら直してもらうように AET などの外国人に頼む
- 47 友人やグループで英語の勉強をする
- 48 AET や外国人の先生に積極的にいろいろ教えてもらう
- 49 AET や外国人の先生には、英語で質問する
- 50 英語で話す人々の文化について学習しようと心がけている

- \*\*\*\*51 単語や語句をおぼえるとき、日本語の意味と一緒におぼえる
- \*\*\*\*52 単語をおぼえるとき、派生語などまとめておぼえる (tradition, traditional など、単語の名詞形と形容詞形など)
- \*\*\*\*53 単語をおぼえるとき、同意語、反対語などまとめておぼえる
- \*\*\*\*54 単語は単語テストを利用しておぼえる
- \*\*\*\*55 基本的な英文は、声に出して何度も暗唱しておぼえる
- \*\*\*\*56 基本的な英文は、何度も紙に書いておぼえる
- \*57 文章は文法の規則で分析せずに、できるだけそのまま暗記する
- \*\*\*\*58 授業で聞き逃した単語や文法について、授業以外の時間に勉強したり、練習する
- \*\*\*\*59 英語の授業のため、たいてい予習する
- \*60 辞書で単語をよく引く
- \*61 辞書で単語を引くとき、その語が使われている例文をいつも見る
- \*\*\*\*62 英語を勉強するとき、教科書ガイドを使う
- \*\*\*\*63 英語は学校の授業以外で勉強する (塾、予備校など)

- \*\*\*\*64 英語は、先生が言ったとおりの方法で勉強する
  - \*\*\*65 単語や表現をおぼえたら早速それを使って誰か（友人、先生、外国人の先生など）に話しかける
    - \*66 暗記した文章を会話のとき使う
  - \*\*\*\*67 「英語で話そう」や「NHK 英会話」などの日本語も使われる英語のテレビ番組をみる
    - \*\*68 字幕スーパーの映画やビデオをみる（レンタルビデオなど）
  - \*\*\*\*69 ラジオの英会話などの英語の番組を聞く
  - \*\*\*\*70 ラジオの英語が使われている番組を聞く（英語のディスクジョッキーの番組など）
    - \*\*71 英語の歌（洋楽）を聞いて英語の単語や表現をおぼえる
    - \*\*\*72 人に自分の英語の間違いを指摘されたら、その後の学習に生かす
    - \*\*\*73 英語の授業以外で、英語が話される行事やイベントに参加する
    - \*\*74 長文を読むとき、まず、わからない単語や熟語の意味を調べる
    - \*\*75 長文を読むとき英文の前や後に日本語の説明があったら、読んで英文の内容をつかむ
    - \*\*\*76 長文を読むとき、イラストや写真があったら、内容理解に役立てようとする
    - \*\*77 よくわからないところがあったら、友人にきく
    - \*\*78 単語や熟語がわからなかったら、マーカーで線を引いて、下に意味を書く
    - \*\*79 授業中、先生の訳と自分の訳を比べてなおす
    - \*\*80 長文読解のときは、日本語訳をノートに書く
  - \*\*\*\*81 入試によく出る単語、熟語を暗記する
  - \*\*\*\*82 入試によく出る基本の英文（基本構文など）を暗記する
  - \*\*\*\*83 受験のための参考書、問題集を勉強する
    - \*\*84 カセット、テキストつきの長文読解教材を用いて（買ったり、借りたりして）勉強する
    - \*\*85 雑誌などで見たり、日常使われているが、意味のわからない英単語や表現があれば、辞書で意味を調べる（車の名前など）
  - \*86 自分がしている行動や自分が見たものについて英語で説明できるかどうか試してみる
  - \*87 自分に向かって英語で話してみる
  - \*88 相手が自分の発音を理解しなかったら、相手がわからなかった単語や語句のスペルをいう
  - \*89 英語を練習するという目的で、誰かと話をしたことがある
  - \*90 自分の好きな話題や使いたい表現が使える会話に、意図的にもっていったことがある
  - \*91 英語で会話をするとき授業で習ったばかりの単語や文章を使ってみるのがよくある
  - \*92 相手の顔の表情やジェスチャーから相手の言っている意味を推測することがよくある
  - \*93 英語で何かを言おうとするとき、たいてい言いたいことをまず日本語で考えそれから英語になおす
  - \*94 英語の授業中、ある文法規則について例外があることに気づいたら、先生に説明を求める
  - \*95 英語で間違いより黙っている方が賢明だと感じることもある
  - \*96 たとえわからなくても、わかったフリをする
  - \*97 英語で話すのが精神的に苦痛なので、英語で話さなければならない状況をできるだけ避ける
  - \*98 英語の授業中、先生があなたを指名しなくても、頭の中で答えをいってみる
  - \*99 英語の授業中、他の学生が間違ったと気づいたら頭の中で、正しい答えを言ってみる
  - \*100 正解であると確信がもてるときだけ質問に答える
-